



September 2002 No. 36

(本部事務局)(財)日本特産農作物種苗協会内 〒107-0052 港区赤坂 2-4-1

(つくば事務所) 農業情報利用研究会内 JRTつくば事務所

〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 143-3

TEL 0298-56-8708 FAX 0298-56-0024

<http://www.jrt.gr.jp>

1年を経過した横浜じゃがいも先物取引の成果と課題

横浜商品取引所

理事・事務局長 野村長次

(はじめに)

横浜商品取引所は、アメリカ、ドイツ、イギリス、オランダで行われている「じゃがいも先物取引」の事例を参考に、我が国初の生鮮野菜「じゃがいも」の先物取引を昨年5月10日からスタートし、1年以上が経過しました。はたして先物取引への上場にとどのような成果があったのか、あるいは今後の課題としてどのようなことがあるのか等、考察してみました。

商品取引所法に基づく許可市場の正式名称は、農産物市場「食用馬鈴しょ」ですが、ここでは、愛称の「横浜じゃがいも」という名前を使用することとします。

1. リスクヘッジのツールを提供

わが国の一般的な会社経営では、コストにマージンを自動的に上乘せするだけのビジネスに甘んじてきました。野菜は、天候による作柄の影響や、昨秋のBSEの影響などの例をとるまでもなく、誰にでも分かる市況商品です。

市況商品にはリスクが付きものですから、リスクを取るか、取らないかの責任は、じゃがいもの生産、流通、加工、販売の全ての関係者に共通する大いなる悩みです。

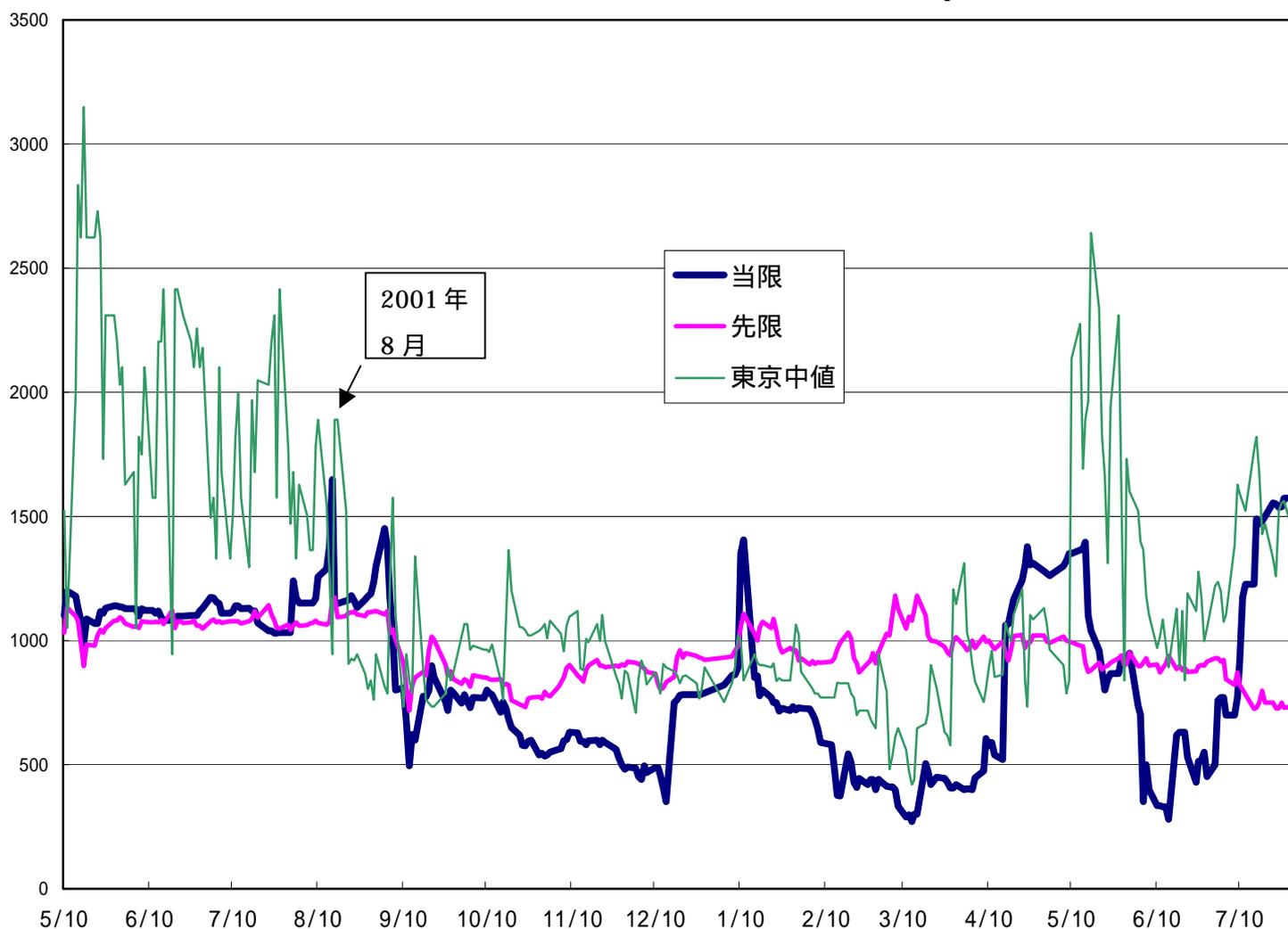
現代社会では、誰もリスクから決して逃れられません。逃れられない以上、しっかり付き合っていくしかないのです。我が国では現物(実物)取引の損は許されても、先物取引の損を罪悪視する雰囲気はまだ根強く残っています。これだけ価格変動の激しい時代にはむしろ先物取引でリスクをヘッジ(回避)しない方が、経営上問題なのです。横浜じゃがいもは、関係者にリスク回避の場を提供する目的をもって上場しました。

3. 横浜じゃがいも相場の推移

横浜じゃがいもでは、常に半年先の相場が建っています。未だ作付けされていない限月(げんげつ = 最終取引の期限の月)の相場が取引されています。取引に参加する人は、作付け動向や需要の動向を分析し、将来相場が上昇すると思えば「買い」による利益を、反対に相場が下降すると思えば「売り」による利益を得ようと行動します。

現物価格がある程度予測される時期になると、卸売市場価格と先物市場価格との乖離を利益獲得の機会と捉えた取引が入ってきます。これを裁定取引といいます。

横浜じゃがいも 当・先限終値及び東京卸売市場主要5市場中値の推移
(平成13年5月10日～平成14年7月30日) 円/10kg



上図の先限は常に半年先の限月価格の日々の動きを示したもので、1,000 円前後で推移しています。当限(とうぎり = 現物を受けるか・渡すかの最終期限の月)は卸売市場価格の影響を最も強く受け、東京5市場の中値平均価格との関係では 2001 年 8 月限が当限となってから、相当の相関を持って価格が連動していることが分かります。

この価格の相関は、横浜じゃがいもの価格が卸売市場価格に比べ安ければ、買いの取引が勢力を得て、高ければ売りの取引が勢力を得て、それぞれ卸売市場価格に収敛しようとする裁定効果を発揮

するからです。総じて横浜じゃがいもの相場は良い値段を現しているとは、関係者の意見です。

なお、ここにきて2002年8月限と9月限の相場が大きく上伸びしています。6月・7月の500円前後の相場から約3倍の価格となっています。今年は早い時期からエルニーニョ現象の兆候が取り沙汰され、冷夏と予想されていましたが、その後は夏らしい夏になるという予報もだされ、専門家からも判断に悩む声も多いのが実情です。

これがまもなく収穫される北海道産の序盤の作況について、予断を許さない状況が続くと見た買い勢力の力が勝っている昨今です。

4. 今後の課題

(1) 良品質の受渡し品の確保

横浜じゃがいもの最終決済の方法を差金決済に拠らず、現物の受渡しとする取引が昨年9月から本年5月迄で1,890トあり、取り分け本年5月は1,375トと大量の受渡しがあった。

この受け渡しされたじゃがいもの品質について、昨年10月から12月は規則に基づくクレーム申請は無かったものの、本年1月及び2月には北海道の気温が平均2～3度高めに推移したことによると見られる発芽いもなどを理由とするクレーム申請とその処理がありました。取引所に設けられている「食用馬鈴しょ運営委員会」がその故障の程度により、軽微なものは申出の却下、中程度は値引き、甚大の場合は代品提供等との判断を下します。

出荷時品位確認書を義務付ける等の指導を行い、本年3月から5月までの受渡しでは品質に関するクレーム申請は無かったものの、「悪貨は良貨を駆逐する」との諺どおり、価格形成に悪影響を及ぼすこととならないよう、良品質の受渡し品確保は最重要の課題と考えています。

(2) 使い勝手の良い市場

先物市場の存在は投機市場だけを理由とするものではありません。当業者のリスクヘッジの場として、例えば現物決済の場合に受渡準備期間をある程度延ばすことによる利便性の向上、受渡基準地(渡し方費用で荷卸する場所)と受渡基準地以外の場所との運賃の決め方等があります。

(3) ベーシス取引の振興

今年1月より、顔の見えるじゃがいも取引として、ベーシス取引を制度化しました。供給者はより高く売りたいとする希望を持ち、より安く買いたいとする需要者の希望との価格差は妥協しないで、先物市場の価格差を利用して現物取引する方法です。出荷団体、卸、仲卸、量販店などの産直取引の値決めに、有効利用できるものです。

(最後に)

横浜じゃがいもが、足腰の強い農業をつくる一助になればと思っています。忌憚の無いご意見をお待ちしています。

事務局だより

【14年試験栽培の実施状況】

14年度の試験栽培につきましては、皆様のご協力のおかげで、以下のとおり、当初予想した以上に多くの方に参加いただくことができました。

さつまいも	344人・組織 608セット	農業高校:18、地方自治体:6、会社:6 研究機関・大学:4、JA:4、農業改良普及 センター等:2 etc
じゃがいも	324人・組織 475セット	農業高校:17、会社:8、研究機関・大学:5 普及センター等:3、農業法人・組織:2、 地方自治体:2 etc

特に、今回はジャガイモでは『インカのめざめ』、サツマイモでは『パープルスweetロード』を単品で一般栽培用に欲しいという要請があるなど注目度が高く、今後の普及が期待されるところです。

また、ジャガイモについては、極長休眠の『十勝こがね』と『ユキラシャ』に対して休眠性がほとんど無い『インカのめざめ』という極端な組合せであったのも特徴です。このため、極長休眠の2品種については賛助会員である菊水堂の岩井さんにポテトチップス原料用の倉庫で温蔵していただき、また『インカのめざめ』については全農のエコーラインの種芋貯蔵施設で冷蔵していただく等の工夫により乗切ることができました。この場を借りて関係者の皆様に御礼申し上げます。

私の場合には今年から借りた市民農園で、『十勝こがね』では5株で7.5kgの収量を得ることができ、『インカのめざめ』についても多肥と密植の組合せで1株当たりの収量の低さをかなりカバー出来ることが確認出来ました。また、花標津のきれいな花は市民農園のメンバーの注目を集めていたようです。現在、畑ではジャガイモの跡に植えた試験栽培用のサツマイモが一面に葉を茂らせています。

試験栽培に参加された会員の皆様の成績はいかがだったでしょうか。レポートや写真など、事務局あてに送っていただければ、ホームページに掲載させていただきますので、気軽にご連絡くださるようお願いいたします。

農林水産省統計情報部構造統計課 矢野哲男

【会費納入のお願い】

平成14年度会費納入がお済みでない方は「郵便振替」または「銀行振込」で払い込みをお願いします。(普通会員:¥3000、賛助会員:1口¥30000)

郵便振替 郵振口座 = 00180-7-362899

銀行振込 常陽銀行 研究学園都市支店 普通口座 = 1449951

注:1)口座名義は、いずれも「JRTつくば事務所」

2)会費の領収証は、「郵便振替受領証」、「銀行振込金受取書」をもって代えさせていただきます。